

# 先人たちの足跡 No.3 「駅通所と渡船場」

道北地方の開拓が始まった明治末年ころの交通事情は、今日では想像もできないほど不便な状況にありました。増毛から日本海に沿って北上し、留萌、羽幌、天塩などを経て、稚内に至る道路は、山地が海岸に迫り、未開通の箇所が随所に存在し、天塩山地から日本海に流入する河川の多くには、橋梁が架橋されておらず、歩いて渡ることのできないところには、渡し場が設置されていました。

名寄方面から北上する道路も、蛇行する天塩川に沿って開削されていたので、激しく屈曲しており、水害や崖崩れにみまわれることも多く、しばしば通行不能になりました。幌延村に入植した人々はこの道路を利用できず、ほとんどの人は小樽港から海路で天塩港に至り、天塩からさらに船で天塩川をさかのぼり、開拓地入りしたと伝えられています。

## ○駅通所

北海道の開拓のため重要な道路に多くの駅通所が設置されました。北海道にまだあまり人が住んでいない時代に、開拓のためにやってくる人や、旅人に宿泊と人馬の継立を行いました。その他に、貨物の運送や郵便取り扱いをするところもありました。

本町には、現在の字浜里にオトンレイ駅通所（明治32年設置～昭和4年廃止）、字下沼に下サロベツ駅通所（明治40年設置～大正15年廃止）、元町に大曲駅通所（明治44年設置～大正15年廃止）、字問寒別（昭和7年に字上問寒に移転）にトイカンベツ駅通所（大正2年設置～昭和18年廃止）の4箇所が置かれていました。



下サロベツ駅通所

## ○渡船場

天塩川が天塩村との村界になっていた幌延村には、多くの渡船場が開拓使や北海道庁によって設置されました。

最も古い渡船場は天塩川口に設置された通称「天塩川口渡船場」で、明治7年開拓使公文録に川幅180間、渡し守の官給年手当25円、渡し賃は人馬共に無賃との記録があります。松浦武一郎の「再考蝦夷日誌」弘化3年（1846）の記録に「テシホ川を渡る」というのがあることから、古くから設置されていたものと思われます。



問寒別渡船場

『お詫び 先月号の「先人たちの足跡」シリーズNo.2の中で法華宗農場管理人「山田日聡氏」と掲載しましたが、「山本日聡氏」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。』

お問い合わせ先

役場総務課企画振興グループ 電話01632-5-1111(内線222,223)

## 暮らしぶりの映し～北の光が続く道～

萌える天北オロロンルート



▼昨秋、遠別町に種を蒔いた菜の花が満開になりました。



▼第2回萌える天北オロロンルートフォトコンテスト締め切り間近！

■締め切り

平成20年9月30日

■応募要項

<http://photocon.moeru.fm>

## 9月 留萌管内イベント情報

### 4日 音楽世界一周の旅

時間：午後7時～  
場所：小平町文化センター

### 6日 おもしろ科学館inほろのべ

時間：午前9時30分～午後4時  
場所：幌延町総合体育館

### 7日 うまいよ！るもい市/屋台るもい食の駅

時間：午前10時～午後2時  
場所：留萌市地方卸売市場

### 21日 てしお味覚まつり

時間：午前10時(予定)～  
場所：鏡沼海浜公園

### 28日 増毛町秋味まつり

時間：午前10時～午後2時  
場所：増毛港中央埠頭特設会場

### お問い合わせ

- 萌える天北オロロンルート  
運営代表者会議事務局  
TEL0164-42-3871 FAX0164-42-2200  
メール tenpoku-ororon@moeru.fm
- ルート内情報満載！るもいfan.net  
<http://rumoifan.net>
- シーニックバイウェイ北海道の情報  
<http://www.scenicbyway.jp/>